

人民元の国際化

—金融市場での規制緩和あれこれ—

昨年11月に開催された三中全会(共産党中央委員会第三回全体会議の略称)で、金融面で市場原理に沿って自由化を促進すると発表されました。この数ヶ月でこの方向性の具体的な政策が実施されています。

まず、人民元為替レートの変動幅拡大について。中国は2005年から変動相場制になっていますが、為替を自由化していないので、レートや変動幅は、中国人民銀行によって管理されています。以前は、中国人民銀行が設定する基準レートに対して、1日の変動幅は±1%が上限とされていましたが、3月17日から±2%へと拡大されました。この変動幅拡大の背景には、人民元を世界の基軸通貨に押し上げたい所謂「人民元の国際化」という流れがあります。それには、為替の自由化にむけた規制緩和が必要です。中国の最大輸出相手国アメリカは、世界2位のGDPを持つ中国の人民元相場が、実力にしては過小評価だと批判しています。今回の変動幅拡大は、アメリカからの圧力とそれに対するアピールだという声もあったように、当初は、元高に動くことが予想されていました。ところが、実際の市場の動きは、元安方向に動きました。結果的に、日本への輸出が多い製造企業にとっては、一時的にはほっとしている状況かもしれません。ただし、中国経済の実態と人民元の国際化政策から、長期的には元高に動くことが市場の流れでしょう。

次は、中国株式市場の開放について。先月、中国政府が主導でアジア経済について議論するボアオアジアフォーラムで、李克強総理が上海と香港の証券取引の間で中国株の売買注文を相互に取り次ぐことを発表しました。今年秋頃を目処に準備が進められ、開始当初は取引額の上限を設定するものの、香港から中国株への投資と、中国から香港株への投資が可能となります。言い換えれば、今後は、海外投資家でも香港の証券会社に口座を持っていれば、規定の取引額上限内で、中国株を購入できるようになるというわけです。アジアの金融の中心である香港株式市場と相互取次ぎによって、香港を介して中国に投資マネーを呼び込むほか、人民元取引の拡大も期待されています。

人民元を世界の基軸通貨に押し上げたい中国は、人民元の信用度を上げたい思いで、自由化や国際化をアピールしています。長期的には、中国の経済力と競争力の実力を見ながら、為替の自由化を目指す方向性には変わりありません。ただし短期的には、製造業と輸出を保護するため、人民元の価値を下げる動きもあり、人民元の国際基軸通貨への道は紆余曲折で、人民元の国際化には長期的且つ冷静に観察することが必要でしょう。

協広島総合卸センター 囑託
(前上海事務所 所長)
蔡 德 榮



上海金融街(外灘)

